

2 年齢別人口

出生年を元号別にみると、明治生まれの人口は28万人（総人口に占める割合0.2%）、大正生まれの人口は614万8千人（同4.8%）、昭和生まれの人口は9945万人（同77.8%）、平成生まれの人口は2189万2千人（同17.1%）となった。（表4、図4）

表4 元号別人口及び割合

	平成19年		平成18年	
	10月1日 現在人口	総人口に 占める 割合(%)	10月1日 現在人口	総人口に 占める 割合(%)
明治生まれ	280	0.2	355	0.3
大正生まれ	6,148	4.8	6,622	5.2
昭和生まれ	99,450	77.8	99,975	78.2
平成生まれ	21,892	17.1	20,817	16.3

図4 我が国の人口ピラミッド(平成19年10月1日現在)

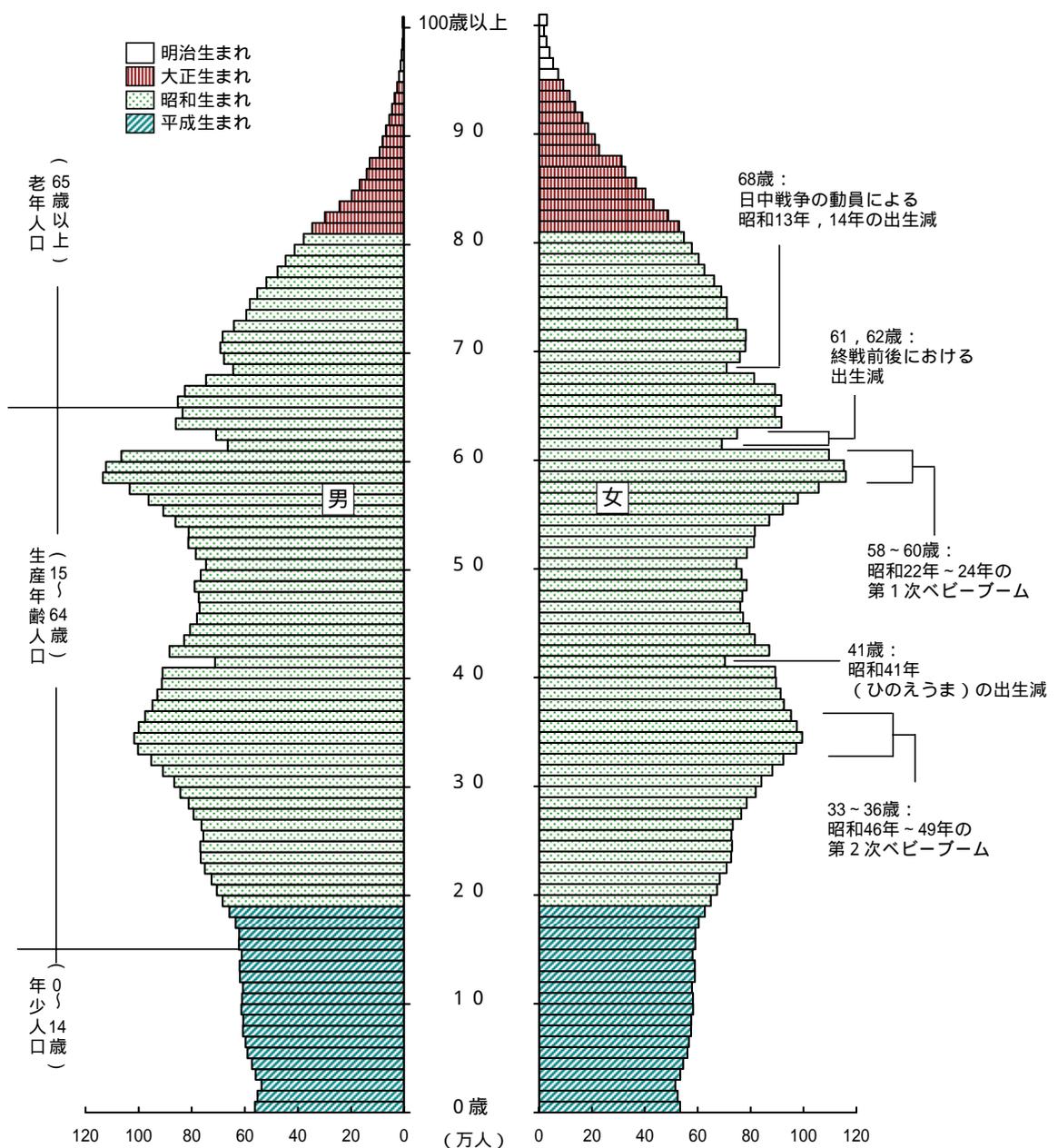


図5 年齢3区分別人口の推移
(昭和25年～平成19年)

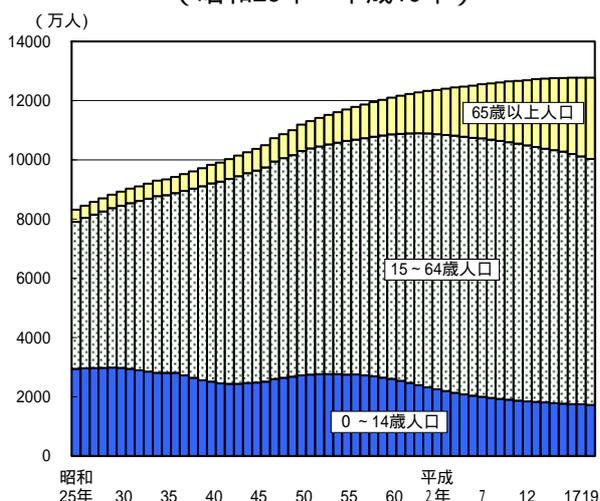
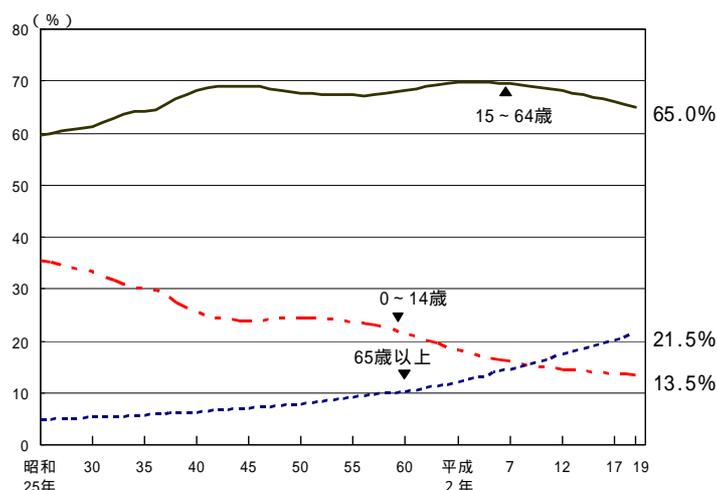


図6 年齢3区分別人口の割合の推移
(昭和25年～平成19年)



年齢3区分別にみると、年少人口（0～14歳）は1729万3千人で前年に比べ14万2千人の減少、生産年齢人口（15～64歳）は8301万5千人で71万6千人の減少となっているのに対し、老年人口（65歳以上）は2746万4千人で86万人の増加となっており、そのうち75歳以上人口は1270万3千人で53万8千人の増加となった。

総人口に占める割合をみると、年少人口が13.5%、生産年齢人口が65.0%、老年人口が21.5%となり、前年に比べ、年少人口が0.1ポイント、生産年齢人口が0.5ポイントそれぞれ低下し、老年人口が0.7ポイント上昇している。

(図5、図6、表5)

表5 年齢3区分別人口の割合及び年齢構造指数の推移(昭和25年～平成19年)

年次	総人口に占める割合 (%)				年齢構造指数			
	年少人口 (0～14歳)	生産年齢人口 (15～64歳)	老年人口 (65歳以上)	うち 75歳以上	年少人口 ¹⁾ 指数	老年人口 ²⁾ 指数	従属人口 ³⁾ 指数	老年化 ⁴⁾ 指数
昭和25年	35.4	59.7	4.9	1.3	59.3	8.3	67.5	14.0
30	33.4	61.3	5.3	1.6	54.4	8.7	63.1	15.9
35	30.0	64.2	5.7	1.7	46.8	8.9	55.7	19.1
40	25.6	68.1	6.3	1.9	37.6	9.2	46.8	24.6
45	23.9	69.0	7.1	2.1	34.7	10.2	44.9	29.5
50	24.3	67.7	7.9	2.5	35.9	11.7	47.6	32.6
55	23.5	67.4	9.1	3.1	34.9	13.5	48.4	38.7
60	21.5	68.2	10.3	3.9	31.6	15.1	46.7	47.9
平成2年	18.2	69.7	12.1	4.8	26.2	17.3	43.5	66.2
7	16.0	69.5	14.6	5.7	23.0	20.9	43.9	91.2
12	14.6	68.1	17.4	7.1	21.4	25.5	46.9	119.1
13	14.4	67.7	18.0	7.5	21.2	26.5	47.8	125.1
14	14.2	67.3	18.5	7.9	21.1	27.6	48.7	130.5
15	14.0	66.9	19.0	8.3	21.0	28.5	49.4	135.8
16	13.9	66.6	19.5	8.7	20.8	29.2	50.1	140.3
17	13.8	66.1	20.2	9.1	20.8	30.5	51.3	146.5
18	13.6	65.5	20.8	9.5	20.8	31.8	52.6	152.6
19	13.5	65.0	21.5	9.9	20.8	33.1	53.9	158.8

注) 各年10月1日現在。昭和25年～平成12年及び17年は国勢調査人口（年齢不詳をあん分した人口）による。
昭和45年までは沖縄県を含まない。

1) $\frac{0\sim14\text{歳人口}}{15\sim64\text{歳人口}} \times 100$

2) $\frac{65\text{歳以上人口}}{15\sim64\text{歳人口}} \times 100$

3) $\frac{0\sim14\text{歳人口}+65\text{歳以上人口}}{15\sim64\text{歳人口}} \times 100$

4) $\frac{65\text{歳以上人口}}{0\sim14\text{歳人口}} \times 100$

総人口に占める割合の推移をみると、年少人口は、昭和50年（24.3%）以降一貫して低下を続け、平成19年（13.5%）は過去最低となっている。生産年齢人口は、昭和57年（67.5%）以降上昇を続けていたが、平成4年（69.8%）をピークに低下している。一方、老年人口は、昭和25年（4.9%）以降上昇が続いており、平成19年（21.5%）は過去最高となっている。なお、75歳以上人口は、昭和25年の1.3%から平成3年には5.0%となり、19年は9.9%となっている。（図5、図6、表5）

我が国の人口の年齢構造を主な各国と比べてみると、調査年次に相違はあるものの、年少人口割合は最も低く、老年人口割合は最も高くなっている。

（表6）

表6 各国¹⁾の年齢3区分別人口の割合及び年齢構造指数

国名	推計時点	総数 (千人)	総人口に占める割合(%)			年齢構造指数			
			年少人口 (0~14歳)	生産年齢人口 (15~64歳)	老年人口 (65歳以上)	年少人口 指数	老年人口 指数	従属人口 指数	老年化 指数
日本	2007.10.1	127,771	13.5	65.0	21.5	20.8	33.1	53.9	158.8
パングラデシュ ²⁾	2004.7.1	136,700	37.7	58.4	3.9	64.6	6.7	71.3	10.4
中国 ²⁾	2007.12.31	1,321,290	19.4	72.5	8.1	26.8	11.1	37.9	41.4
インド	2001.3.1	1,028,610	35.3	59.6	4.8	59.3	8.0	67.3	13.5
インドネシア	2003.7.1	214,251	29.2	66.0	4.8	44.3	7.2	51.5	16.3
イラン	2005.7.1	68,467	29.6	65.8	4.6	45.0	6.9	51.9	15.4
韓国 ²⁾	2007.7.1	48,456	18.0	72.0	9.9	25.0	13.8	38.8	55.0
パキスタン	2003.7.1	138,979	42.2	54.4	3.4	77.6	6.2	83.8	8.0
フィリピン	2003.7.1	81,081	34.7	61.1	4.2	56.7	7.0	63.7	12.3
タイ	2005.7.1	64,839	23.0	70.0	7.0	32.8	10.0	42.8	30.5
トルコ	2004.7.1	71,152	28.8	65.4	5.7	44.0	8.8	52.8	19.9
エジプト	2000.7.1	63,976	37.7	58.9	3.4	63.9	5.8	69.7	9.0
エチオピア	2004.7.1	71,066	43.2	54.0	2.8	80.0	5.3	85.2	6.6
ナイジェリア	2003.7.1	126,153	44.3	53.0	2.7	83.4	5.1	88.5	6.1
南アフリカ ²⁾	2007.7.1	47,851	31.9	62.9	5.2	50.7	8.2	58.9	16.2
メキシコ	2003.7.1	104,214	31.4	63.6	5.0	49.4	7.9	57.3	16.0
アメリカ合衆国 ²⁾	2006.7.1	299,398	20.3	67.3	12.4	30.2	18.5	48.7	61.3
ブラジル	2005.7.1	184,184	27.9	66.0	6.1	42.3	9.3	51.6	21.9
コロンビア	2005.7.1	46,039	31.0	64.0	5.0	48.3	7.8	56.1	16.1
フランス ²⁾	2008.1.1	63,753	18.5	65.2	16.3	28.4	25.0	53.4	87.9
ドイツ ²⁾	2005.12.31	82,438	14.1	66.6	19.3	21.2	28.9	50.1	136.2
イタリア ²⁾	2007.1.1	59,131	14.1	66.0	19.9	21.3	30.2	51.5	141.5
ロシア ²⁾	2006.1.1	142,754	14.9	71.2	13.9	20.9	19.6	40.5	93.5
スペイン ²⁾	2008.1.1	45,283	14.6	68.8	16.6	21.3	24.1	45.4	113.6
ウクライナ ²⁾	2007.12.31	46,466	14.2	69.4	16.4	20.5	23.6	44.1	115.1
イギリス ²⁾	2006.7.1	60,587	17.7	66.3	16.0	26.7	24.1	50.9	90.2

注1) 推計時点が2000年以降で人口4000万人以上の国とした。

2) 各国統計機関のホームページによる。その他は国連人口統計年鑑（2005年版）による。